

平成 28 年度の流域連携テーマの活動成果

1. 流域連携テーマ

流域連携テーマと解決手法を以下に示す。

<テーマ>	<解決手法>
ごみ・流木	海部会 WG を中心に実施するごみ・流木に関する検討のうち、「ごみマップ」をベースにして成果を公開
土砂	「砂の駅」構想について、イベントを実施するとともに、流域圏としてのしくみを形成
木づかい	山部会 WG で検討されている「流域ものさし」の製作と、このプロジェクトを基軸とした、次世代を担う子供たちも巻き込んだ考え方の展開

2. 平成 28 年度の活動成果

ごみ・流木

- ごみ・川ごみ問題について全国的な活動を実施している一般社団法人 JEAN および全国川ごみネットワークを招き、ごみ問題に関する最新の知見（プラスチックごみの被害状況、生態系への影響等）について説明いただき情報共有を行った。（第 32 回海部会 WG）
- 市民団体から関係者が協働して調査、検討する場としてのモデル河川に中部地方では矢作川を候補にしたいとの要請があった。（第 32 回海部会 WG）
- 愛知県が取り組むごみ学習プログラムの内容について情報共有を行った。（第 33 回海部会 WG）
- 河川愛護意識（ゴミ問題への理解・草刈りや清掃イベントの実施など）向上が期待される広域サイクリングロード構想について、整備・利用にあたっての意見交換を行った。（第 36 回川部会 WG）
- 奥矢作森林フェスティバル（2016.7.16 開催）において、流域圏懇談会として「三河湾の魚介類の紹介とふれあいの場」のブースを出展した。



プラスチックごみ問題の提供資料



カードゲーム形式のごみ学習教材



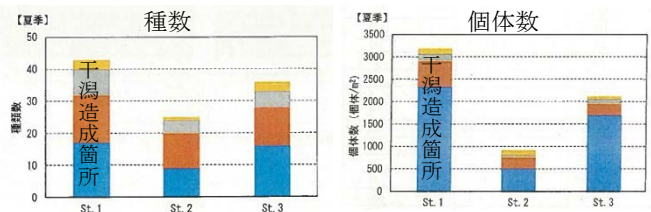
三河湾の魚介類とのふれあいの場の提供

土砂

- ・ 総合土砂管理における給砂実験について勉強会を実施した。(第 37 回川部会 WG、第 33 回海部会 WG)
- ・ 神奈川県山北町における森づくりによる水源環境保全について現地を見学し、森林・ダム・土砂の勉強会を実施する。(2017. 1. 28 実施予定)
- ・ 河口部の浚渫や上流域からの土砂供給の減少により失われた干潟・ヨシ原の再生事業について勉強会を実施し、情報共有を行った。(第 32 回海部会 WG)
- ・ 「砂の駅」イベントへの活用が可能となる広域サイクリングロード構想を検討するにあたっての意見交換を行った。(第 36 回川部会 WG)

木づかい

- ・ 奥矢作森林フェスティバル (2016. 7. 16 開催) において、流域圏懇談会として「動く木のおもちゃの展示」、「根羽スギを使ったペンダントづくり」のブースを出展した。根羽村森林組合では、木づかいに関するイベントを年間 30 箇所以上開催した。
- ・ 矢作川流域に生育する樹木から作成した「流域ものさし」の活用方法（矢作川流域の名刺としての利用等）について、意見交換を行った。(第 35・37 回山部会 WG)
- ・ 第 6 回全体会議において「流域ものさし」の意義や活用方法について提案を行う。(2017. 2. 24 実施予定)



東幡豆干潟造成箇所および既存干潟における底生動物生息状況の違い



広域サイクリングロード構想に関する意見交換



動く木のおもちゃの展示

ペンダントづくりの様子



流域ものさし (試作品)

国土交通省 豊橋河川事務所
矢作川流域圏懇談会 事務局

矢作川河川敷への自転車・歩行者道の整備について（情報提供）

国土交通省では、自然豊かで貴重な公共空間である河川敷地について、治水上、利水上又は河川環境上の支障が生じないように配慮しつつ、快適でにぎわいのある水辺空間の創出を推進しています。

近年、資源としての河川利用がこれまで以上に重要となってきたことから、河川を有効に活用するため、河川空間のオープン化、かわまちづくり支援制度やミズベリングプロジェクトなど魅力ある水辺空間の創出を推進しています。→ P4

さて、これらの推進に合わせ、西三河地域の母なる川である矢作川を有効に活用する取り組みのひとつとして、流域内自治体の広域的な連携による、矢作川河畔への広域自転車歩行者道の構想について話し合いをしたいと思います。

→ P5

広域サイクリングロード(自転車・歩行者道)の整備と利用について

○矢作川河川敷への広域サイクリングロードの整備・利用による効果として、上下流交流の促進、地域活性化、河川愛護意識の育成・向上、ゴミ問題への理解など多くの効果が期待されます。

例として

①上下流交流の促進

- ・流域サイクルイベント、流域マラソンイベント、
山/川/海の連携イベント（潮干狩りや釣り、砂の運搬など）

②地域活性化

- ・各地域の自然や歴史/文化を巡るコース設定、イベントの取り組みなど
山/川/海の連携イベント（潮干狩りや釣り、砂の運搬など）

③河川愛護意識の育成・向上

- ・河川の自然環境に親しむ
- ・ゴミ問題への理解
- ・草刈りや清掃、交流イベントなどを河川管理者/自治体/地域住民が連携し協同して取り組む

○河川空間を活かしたレクリエーション利用に資する自転車・歩行者交通ネットワークから、都市部の自動車から自転車・歩行者交通への転換を促進することにより環境負荷の低減が図れます。

○自転車をもたらす健康効果には、脂肪燃焼・ダイエット効果、下半身の筋力アップ、内臓の強化、心肺機能の向上、脳の活性化、持久力の向上、免疫機能の向上、睡眠の質の向上等があるとされています。

★矢作川流域圏懇談会の「流域連携テーマ」である、「ゴミ・流木」「土砂」「木づかい」に絡めた取り組みの話し合い。

<矢作川ディズ・木づかい市民活動・フェアトレード・流域連携>

◆根羽村では、小学生が源流から河口まで自転車で走破したことが周知されました。WGでは、下流の小学生を対象に流域を自転車で下るイベントを実施してみたいという意見が出されました。また、山村再生担い手づくり事例集の取材先に協力を得てはどうかとの意見もあがりました。次年度以降のWGにおいて部会員が試験的に体験し、その後、本格的な実施に向けた検討を行う予定です。



矢作川の源流から河口を走破した小学生の発表資料

◆木づかい活動における、自転車スタンド・テーブル・ベンチ等への利用が取り組まれています。

<土砂>

矢作ダムの堆積砂を海へ運ぶ「砂の駅」プランについて、実施主体、運搬方法、取組み方法等の検討を始めています。

【進めるべき方向性・方策②】

魅力ある水辺空間の創出



② 矢作川河畔の広域サイクリングロード構想

- 本プランが提案するサイクリングロードの整備と岡崎市矢作川水辺環境整備事業によるサイクリングロード整備、また既整備の豊田安城自転車道とを結ぶことにより、豊田市・岡崎市・安城市の3市にまたがる総延長約33kmの広域的な矢作川河畔サイクリングロードの整備が可能となります。今後は、河川管理者、岡崎市、安城市との広域的な連携により、具体化に向けた調整を図っていきます。



図 6.2 広域サイクリングロードの構想図

③ 河川愛護活動の流域圏への展開

- 豊田市域の矢作川では、草刈や清掃など地域住民による愛護活動が活発に行われ、良好な河川環境が保全されています。今後は、この活動の輪が将来的に流域全体に広がっていくことを目指し、河川管理者や流域市町村との連携や情報共有により、流域住民への河川愛護意識の高揚を図っていきます。